

委託事業実施内容報告書
2019年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】

実施内容報告書

団体名： 学校法人学習院 学習院大学

1. 事業の概要

事業名称	社会の一員となることを目指す日本語学習の環境作り—多文化共生社会における地域と大学の連携—
事業の目的	豊島区及びその近隣区域の外国籍住民(日本語学習を必要とする生活者)が、社会(コミュニティ)の一員となるために必要な日本語を身に付けることができる学習環境作りを行う。年齢、滞在目的、レディネス等に左右されることなく、コミュニティへの参加や新たな仲間づくりが可能となるよう、域内において切れ目のない支援体制、日本語教育体制を築く。以上を目標に、2019年度はその第一段階として区内日本語教育機関・組織の情報を共有すると同時に、日本語教室においては学習環境整備に向けた新たな試みを行い、その内容・方法の共有化のための下地作りを行う。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	豊島区は人口の約1割が外国籍住民という状況が続いているが、本事業の計画当時(平成31年1月)、彼らの視点から日本語学習環境を見直すと、日本語学習に関する情報が容易に得られる状況にはなかった。日本語教室の開講曜日・時間・場所は限定的であり、義務教育修了段階の子どもや高齢者が学べる機会も限られていた。こういった状況から、社会の一員として生活するために必要な日本語を学びたい外国人が、年齢や生活環境に縛られることなく日本語を学べる環境作り、体制作りが必要だという考えに至った。
本事業の対象とする空白地域の状況	該当せず
事業内容の概要	1.区内日本語教育連携体制の構築：(1)豊島区内の日本語教育ネットワークである「日本語ネットとしま」を発足し、会議開催による情報共有を行った。(2)日本語教育関係機関・組織に対する調査を実施し、その結果を踏まえて、区内日本語学習環境の見取り図「豊島区日本語学習環境マップ」を作成した。 2.コミュニティを基盤とする自律的・協働的学びの促進：消防署、医療機関、区民ひろば、民間交流団体、各種サークル等と連携し、日本語及び日本社会について学ぶ場、外国籍住民について理解する場を作った。双方のコミュニケーション能力の向上を図るだけでなく、コミュニティの中で自律的・協働的に学び続けるための能力を培うプログラムを企画・運営した。 3.シンポジウム「コミュニティに根差した日本語学習の可能性」の開催：「日本語ネットとしま」、調査、及び「豊島区日本語学習環境マップ」の報告と意見交換、区内日本語教室等の活動紹介、地域日本語教育に関する専門家による講演等からなるシンポジウムを企画した。新型コロナウイルス感染拡大状況を踏まえ、公開実施は中止し、代わりに主な内容を映像及び配布資料によって参加者に一定期間提供した。
事業の実施期間	2019年5月～2020年3月 (11か月間)

2. 事業の実施体制

(1)運営委員会

【運営委員】

1	金田智子	学習院大学文学部・教授
2	小林立明	学習院大学国際センター・准教授
3	中上亜樹	学習院大学文学部・准教授
4	水上千春	豊島区文化商工部学習・スポーツ課生涯学習振興グループ・係長
5	千秋麻帆	豊島区文化商工部学習・スポーツ課生涯学習振興グループ・職員
6	品田潤子	公益社団法人国際日本語普及協会<AJALT>・教師会員
7	吉田聖子	川崎市国際交流協会・評議員
8	米勢治子	東海日本語ネットワーク・副代表
9	文野峯子	人間環境大学・名誉教授
10		



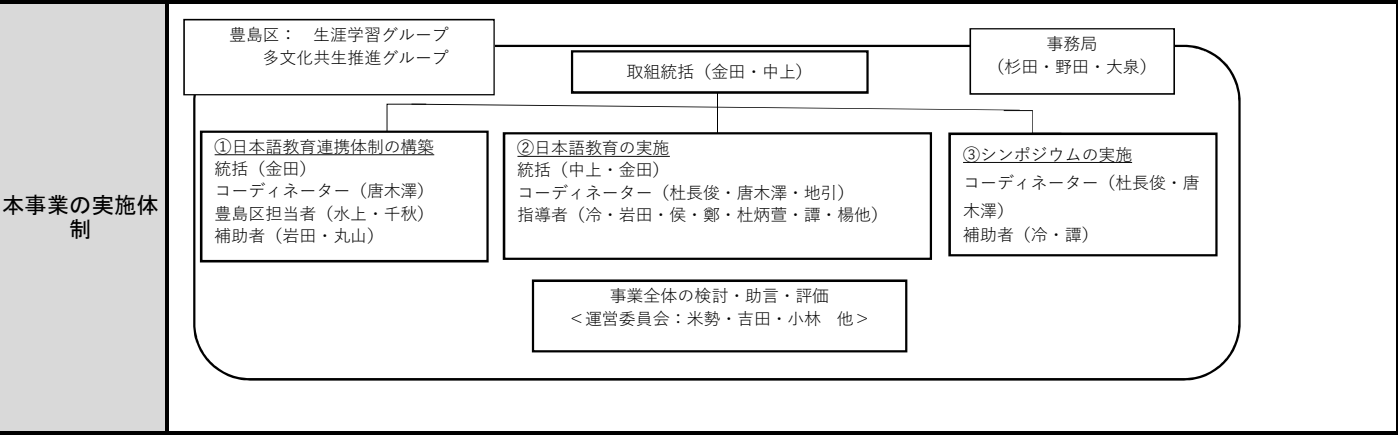
【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	令和元年7月15日 (月) 15:00～17:30	2.5時間	学習院大学 北1号館303号教室	水上千春、千秋麻帆、 文野峯子、米勢治子、 吉田聖子、金田智子、 地引愛、唐木澤みどり、 野田佳代、大泉佳菜、 杜長俊、	1. 平成30年度事業の成果及び課題に関する意見交換 2. 令和元年度事業における3つの取組の計画に関する検討
2	令和元年11月28日 (木) 15:00～17:30	2.5時間	学習院大学 南2号館207号教室	水上千春、文野峯子、 吉田聖子、品田潤子、 小林立明、中上亜樹、 金田智子、地引愛、 唐木澤みどり、野田佳代、 大泉佳菜、杜長俊、	1. 取組1(区内連携体制の構築)の実施状況と現段階の課題に関する意見交換 2. 取組2(日本語教室)の実施状況と課題に関する意見交換 3. 取組3(シンポジウム)の内容案に関する意見交換
3	令和2年2月29日 (土) 10:30～13:00	2.5時間	学習院大学 中央教育研究棟 508号教室	千秋麻帆、文野峯子、 米勢治子、吉田聖子、 品田潤子、小林立明、 金田智子、地引愛、 唐木澤みどり、野田佳代、 大泉佳菜、杜長俊、	1. 3つの取組の実施報告と、来年度に向けての課題検討 2. 今年度事業の評価 3. 来年度以降の事業計画に関する意見交換

(2)地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	学習院大学を拠点とし、豊島区文化商工部学習・スポーツ課生涯学習振興グループとの協働により、豊島区教育センター、区内日本語教室及び国際交流団体、子ども支援団体等と連携し、日本語学習環境に関する見取り図を作成した。それと同時に、消防署、区民ひろば、交流組織等、各種団体・個人による出張授業（講師、又はゲストとしての参加）を組み込んだ教室、外国籍住民が主体的に運営し日本人と協働できる活動を設計した。さらに区内の日本語学校や日本語教師養成課程を有する教育機関等との情報共有を行い、今後の連携可能性を探った。
------	--

(3)中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制



3. 各取組の報告

＜取組1＞											
取組の名称		区内日本語教育連携体制の構築									
取組の目標		1. 多様な外国籍住民が、地域社会の一員として、安全かつ快適な生活を送れるようになるための日本語学習環境構築を目指し、豊島区における日本語教育関係機関・組織の情報共有を進め、連携体制を築く 2. 区内の日本語学習環境の「見える化」を行い、改善すべき点を明らかにする									
取組の内容		1. 豊島区内の日本語教育ネットワーク会議として「日本語ネットとしま」を開催し、豊島区の担当課、区内日本語教室、豊島区教育センター日本語指導教室、区内の日本語指導学級が設置されている小学校、外国籍住民を支援するNPOなどの団体等の関係者が集い、それぞれの現状や課題について情報交換すると同時に、その解決に向けての意見交換を行った。 2. 上記「日本語ネットとしま」での情報交換を踏まえ、日本語教育関係機関・組織を対象とした調査を実施した。この調査の目的は、豊島区の日本語教育の現状と課題を明らかにすること、地域に暮らす外国人が日本語を学べる場所を示した「豊島区日本語学習環境マップ」を作成することである。このマップ(8言語で作成)は外国籍住民、日本語学習を必要とする人、日本語学習を支援したい人にとってわかりやすいものとするをねらった。調査の結果は、「日本語ネットとしま」の会議で報告した。また、取組3のシンポジウムで公表した。 3. 「豊島区日本語学習環境マップ」は、「日本語ネットとしま」参加団体や豊島区内の関連施設への配布及び大学と豊島区のホームページへの掲載を通して、普及に努めた。 4. 上記1～3を通じて、地域の日本語教育関係者の連携体制を強化した。 尚、本取組で築いたネットワークを基盤とし、2020年度は「日本語教育に関する調査の共通利用項目」(国語分科会作成)を活用し、学習者・外国籍住民に対する調査を行う計画である。									
☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動	該当せず									
取組による体制整備		多様な団体・組織が一堂に会して情報交換・意見交換を行い、それを踏まえて日本語教育関係・組織を対象とした調査を実施し、さらに、具体的な成果物として「豊島区日本語学習環境マップ」が完成した。一連の過程を経て、日本語教育・日本語学習を軸とした横のつながりが形成された。日本語を学びたい人や、それを支援したい人にとって必要な情報を効果的な形で提供することが可能となった。									
取組による日本語能力の向上		本取組において、日本語習得に関する直接的な効果は目的としない。しかし、今後、マップの作成・普及を通じ、日本語を学びたい人が日本語教室等にアクセスしやすくなることを期待している。									
参加対象者		区内日本語教育関係及び在住外国人支援関係機関・組織における中心的立場の方々						参加者数 (内 外国人数)		38人(2人)	
広報及び募集方法		参加対象者に案内文を作成し、配布または送付した。									
開催時間数		総時間 5.5 時間(空白地域0時間)				内訳 第1回会議:1.5 時間×1回 第2回、第3回会議:2時間×2回					
主な連携・協働先		豊島区文化商工部学習・スポーツ課生涯学習振興グループ、政策経営部企画課多文化共生推進グループ、豊島区教育センター、豊島区民社会福祉協議会、区内日本語教室、外国人支援を行うNPO等。									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)		中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
※該当する場合のみ		1									36
		台湾(1人)									
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	令和元年7月26日(金) 15:30～17:00	1.5	学習院大学 国際会議場	27	参加団体紹介と 課題の洗い出し	・趣旨説明 ・参加団体の紹介 ・豊島区より区の現状説明 ・東京都「外国人在留マニュアル」紹介 ・事務局より本事業の説明 ・区内日本語教育の課題の洗い出し(グループ)		＜話題提供＞ 澤田健(豊島区) 賀谷周志(警視庁)	澤田健、大鶴美奈子、阿部治子、水上千春、千秋麻帆、齊藤光司、野瀬博、石川悦子、田中慎吾、杉山貴子、杉浦啓子、堀富士夫、慶世村ひろ子、竹内瀧子、林輝雄、直井浩、中上亜紀、杜長俊、矢部美津子、中原清則、幅野裕敬、牧野齊子、丸山千歌、賀谷周志、諏佐孝徳、金田智子、唐木澤みどり		
2	令和元年10月4日(金) 14:00～16:00	2	学習院大学 国際会議場	23	課題の共有と 調査依頼	・区内日本語教育の課題のまとめの報告・意見交換・共有 ・会議名称の検討「日本語ネットとしま」に決定 ・区内日本語教室を対象とした調査の説明と教室への調査依頼		なし	阿部治子、千秋麻帆、野瀬博、田中慎吾、杉山貴子、杉浦啓子、瀬間弘子、堀富士夫、慶世村ひろ子、竹内瀧子、林輝雄、直井浩、高野恵、杜長俊、莊司哲夫、栗林知絵子、前澤博一、巾静香、高成田健、王媛、香川陽子、金田智子、唐木澤みどり		
3	令和2年1月20日(月) 15:00～17:00	2	学習院大学 国際会議場	21	調査報告と マップ案の検討	・区内日本語教育機関等調査の進捗状況の報告 ・「豊島区日本語学習環境マップ」案の検討 ・シンポジウムの内容の説明と検討 ・来年度の計画説明		なし	大鶴美奈子、阿部治子、千秋麻帆、野瀬博、田中慎吾、杉浦啓子、瀬間弘子、慶世村ひろ子、竹内瀧子、林輝雄、尾上多喜雄、青木身佑、杜長俊、莊司哲夫、栗林知絵子、幅野裕敬、丸山千歌、香川陽子、賀谷周志、金田智子、唐木澤みどり		

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回 令和元年7月26日】

1. 出席者自己紹介: 初めて関係者が集まったことから、それぞれの団体の紹介を行った。(写真左)
2. 豊島区の状況について(豊島区政策経営部企画課澤田課長): 豊島区の外国人在住状況、区の多文化共生基本方針等の説明があった。(写真中央)
3. 警視庁からのお知らせ: 東京都が作成した外国人在留マニュアルの紹介。外国人が安全安心に暮らすためのマニュアルとして多言語で作成しているので、活用を促してほしいとの要請があった。
4. 本事業の説明(事務局): 「区内日本語教育連携体制の整備」として、会議の開催、調査、見取り図の作成、シンポジウムの開催について説明した。
5. 課題の洗い出し: グループで、豊島区内日本語教育等に関する課題を洗い出し、共有・検討した。(写真右) * 第2回会議で課題を全体共有した。



○取組事例②

【第3回 令和2年1月20日】

1. 「豊島区内日本語教育機関等に関する調査」進捗状況報告: 区内日本語教室、子ども向け学習支援教室への調査の進捗状況を報告し、質疑応答を行った。(写真左)
2. 豊島区日本語学習環境マップ案の検討: マップ案を配布し、説明の上、掲載内容やフリガナの必要性等についての意見交換を行った。
3. シンポジウムの内容について: シンポジウムの内容説明と、日本語学習支援団体紹介の方法としてのポスター発表の説明を行い、ポスターの内容等について話し合った。(写真右)
4. 来年度の計画等: 来年度の計画について説明し、来年度以降も区内日本語学習環境がより良いものとなる方策を考えていくことや、そのための調査内容に対する意見交換等を行った。



(2) 目標の達成状況・成果

- ・区内日本語教育ネットワーク会議として「日本語ネットとしま」を今年度3回開催することができたことにより、区内の日本語教育関連組織・団体が初めて一堂に会し、多様な立場からの率直な意見交換・情報交換を行い、区内日本語教育等に関する課題を共有することができた。特に、区共催の日本語教室全9教室が初めて集まり、意見交換が可能となったことで、同じ地域の日本語教室でも多様な考え方や活動形態があることがわかり、さらなる連携の可能性が明らかになった。第1回会議の自己紹介の中でも、日本語教室から、このようなネットワークを待ち望んでいたという発言が聞かれた。また、会議体の名称は第2回会議でグループ討議をもとに全体の総意で作上げたものである。これにより、自分たちが作るネットワークであるという意識が保たれることを期待したい。
- ・豊島区教育センターや日本語指導学級が設置されている小学校、外国につながる子ども支援のNPOなども参加することにより、大人の日本語学習者だけでなく、外国につながる子どもたちへの支援の現状と課題も共有できた。大人の学習者に関する課題としては、継続的な学習や評価の難しさ等が挙げられ、子どもに関しては、学校生活への適応や学力の保証、多様な年齢層に応じた支援、母語保持の問題等が挙げられた。このような課題が明らかになり、それぞれの理解が進んだことは、多様な外国籍住民の日本語学習環境構築を検討する上で、重要な役割を果たすと考えられる。
- ・会議における課題共有の中では、日本語教育の問題だけでなく、外国籍区民の生活上の問題や多文化共生、相互理解の必要性などの広がりがあった。これは、目標である「地域社会の一員として、安全かつ快適な生活を送れるようになるための日本語学習環境」を考えるうえで必要な視点となった。
- ・調査を通じて、区内日本語教育体制の現状と課題を、日本語学習の場・機会の提供側の視点から把握することができた。この調査を基にした「豊島区日本語学習環境マップ」作成により、区内の日本語学習環境の「見える化」を行うことができた。日本語教室が、ターミナル駅である池袋駅周辺に集中していること、外国につながる子どもも参加可能な子ども向け学習支援教室はそれより少し広い範囲に点在していることが分かった。この調査結果に、今後予定している外国人住民に対する調査の結果を加え、考察することで、学習環境改善の方策が具体化できると考えられる。
- ・今回作成した「豊島区日本語学習環境マップ」は、区内の外国籍住民の国籍上位6か国を含む8言語(日本語、英語、中国語簡体字、中国語繁体字、韓国語、ベトナム語、ネパール語、ミャンマー語)で作成した。関連機関等への配布と豊島区及び学習院大学のHPに掲載したことにより区内の多くの外国人住民に活用してもらえるものとなった。((大学HPリンク先: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/news/2020/0317-2.html>))

(3) 今後の改善点について

- ・「日本語ネットとしま」の今後の継続・発展に向けて、参加団体の拡大を進めつつ、主体的参加の促進、連携の強化を目指していく必要がある。
- ・「日本語ネットとしま」のメンバーとして、当初は外国籍住民グループの参加も期待していたが、区内の外国籍住民グループに関する有効な情報を得ることができず、参加がかなわなかった。外国籍住民グループあるいはリーダー的な外国籍区民が会議に参加できるよう、引き続き情報を収集していく。
- ・「日本語ネットとしま」を通して、日本語教育や外国人の暮らしに関する課題を洗い出し、共有することはできたが、それらの課題の解決の検討までには至っていない。来年度実施する調査結果も踏まえ、課題の解決を目指した具体的な検討を行っていく計画である。
- ・今回作成した「豊島区日本語学習環境マップ」はシンポジウムで公表し、参加者からの意見をもとに修正を加える予定であった。しかし、シンポジウムは新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となり、豊島区の協力も得ながら区内の関連施設、団体への配布及びHPへの掲載によって公表を行った。今後、マップに関する意見収集、さらなる普及のための機会・方法の検討、修正・改訂の時期及び方法の検討を行う必要がある。

＜取組2＞（教室A）											
取組の名称		コミュニティを基盤とする自律的・協働的学びの促進－「学習院大学わくわくとしま日本語教室」－ ＜教室A:わくわくクラス＞									
取組の目標		1. 外国籍住民が社会の一員として生活するために必要となる日本語能力の基礎を身に付ける場を設ける。 2. 公的機関、民間交流団体、各種サークル等との活動を通じ、コミュニティの中で自律的・協働的に学び続けるための能力を培う。 3. 活動を通じ、日本語及び日本社会、外国籍住民について日本人が理解を深める場を作り、双方のコミュニケーション能力の向上を図る。									
取組の内容		＜教室A:わくわくクラス＞では、以下を行った。 1. 「学習院大学わくわくとしま日本語教室」の実施：平成30年度までに開発した教材を基礎として、多様な背景、ニーズ、生活環境に配慮した活動や教材を設計し実施した。2016年度から実施したブラッシュアップ講座（教育人材育成のための研修）での学びを生かし、学習者が日本語の学習や使用を自律的に管理する機会、達成感のある学びの機会を多く取り入れた。 2. コミュニティの中での学び：コミュニティの参加・活用・形成を行いながら、社会の一員となることを意識できる活動、他者との活動を通じて自律的・協働的に学ぶことを実感できる活動を取り入れた。 3. 消防署員や医療関係者などを招いた授業と公開イベントを行い、日本語学習者が日本語を実際に使う機会を増やすと同時に、日本人が外国籍住民や日本語学習者について理解を深め、日本語を調整しながら用いる場を作った。									
☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動	該当せず									
取組による体制整備		公的機関、民間団体、地域住民等、様々な立場・年齢・背景の人々が参加する機会を設けることにより、「日本人」対「外国人」ではない、「個人」としてのやりとりやつながりが生まれ、実生活における様々な障壁をお互いに崩していくきっかけとなった。相互理解を促し、具体的な連携体制を築いていくための下地作りが進んだと考えられる。									
取組による日本語能力の向上		1. 簡単な挨拶以外は発することができず、ひらがな・カタカナの読み書きも容易ではなかった学習者が、人の助けを借りつつも、買い物や緊急時など生活場面において必要な日本語能力の基礎を身につけることができたと考える。具体的には、継続的に参加した学習者は「とよた日本語能力判定」のレベル0からレベル2以上に判定できるような日本語能力の向上があった。 2. 学習ポートフォリオやSNSなどを使用し、教室外での日本語学習状況を教室内で共有した。この活動によって、学習時間の増加や日本語使用機会の増加などが観察された。教室外の学習機会等の増加を促進できたことは、日本語能力向上の一助となったと考える。									
参加対象者		・豊島区及び近隣区域に暮らす外国人（特に、これまで日本語学習の機会を有効に活用できていなかった人） ・＜特別授業や公開イベント＞専門職の日本人、一般の日本人					参加者数 （内 外国人数）		総数56人（38人） ＜受講者38人、協力者（ゲスト等）18人＞		
広報及び募集方法		チラシ作成・配布・配置（豊島区窓口）。豊島区ホームページ、大学ホームページ及びFacebookによる周知。									
開催時間数		総時間 75.5 時間 （空白地域0時間）			内 訳 1回 2.5時間 × 29回 1回 3時間 × 1回						
主な連携・協働先		区民ひろば目白、消防署、区内飲食店、学習院大学保健センター									
受講者の出身 （ルーツ）・国別内訳（人）	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	
	16	1		1					3		
	※該当する場合のみ シンガポール（6人）、インド（4人）、ミャンマー（3人）、台湾（1人）、イタリア（1人）、フランス（1人）、アメリカ（1人）										
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	令和元年6月1日（土） 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 303号室	19	近所の人との会話 ① あいさつ	①自律的、継続的な日本語学習を行うために、学習ポートフォリオを使用し、中・短期の目標を設定した。 ②近所の人と簡単なあいさつができることを目標に、時間に合わせた挨拶表現を練習し、学習者同士で、ロールプレイを行った。		地引愛	鄭紅（指導補助） 李娜（指導補助） 張雅ティ（指導補助） 崔莉莉（指導補助） 【前半】 冷俊俊（通訳） 杜炳萱（保育） 【後半】 譚穎楠（保育）		
2	令和元年6月8日（土） 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 303号室	17	買い物① （対面で）	コンビニやデパートなどで対面で買い物ができることを目標に、商品の数え方などの表現を練習し、学習者同士でロールプレイを行った。 【読み書き】自分の名前をカタカナで書けることを目標に、50音表から自分の名前の文字を探し、書く活動を行った。		地引愛	楊凌眉（指導補助） 冷俊俊（指導補助） 杜炳萱（指導補助） 譚穎楠（指導補助） 【前半】 鄭紅（保育） 【後半】 侯翼君（保育）		

3	令和元年6月15日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 303号室	17	ドラッグストア	ドラッグストアで薬剤師に症状を簡単に説明し、薬を購入できることを目標に、症状の言い方などを練習し、学習者同士でロールプレイを行った。	【前半】 【後半】	苑 権毅(指導補助) 侯翼君(指導補助) 岩田香里(指導補助) 【前半】 卡士菲(保育) 【後半】 張雅ティ(保育)
4	令和元年6月22日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 303号室	16	道聞き (建物内で)	売り場やトイレ等施設の場所がわかることを目標に、階数や方向を示す表現の聞きとり練習をした。 【読み書き】街中にある看板の濁音・半濁音の表記を見て、音声化できることを目標に、50音表を使いながら、看板の音読を行った。	【前半】 丸山将英 【後半】 冷俊俊	【前半】 冷俊俊(指導補助) 苑 権毅(保育) 【後半】 丸山将英(指導補助)
5	令和元年6月29日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 303号室	17	電車	下車駅で目的地に近い出口や改札口の場所がわかることを目標に、改札看板の漢字の読み取りを練習した。 【読み書き】メニューや駅名などにある促音の表記を見て音声化できることを目標に、音読を行った。	【前半】 卡士菲 【後半】 侯翼君	【前半】 侯翼君(指導補助) 冷俊俊(保育) 【後半】 卡士菲(指導補助)
6	令和元年7月6日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 303号室	13	ごみ	ごみ分別表が読み取れることを目標に、曜日の漢字を読む練習やごみの種類がわからない時に聞く表現を練習し、学習者同士でロールプレイを行った。 【読み書き】駅名などにある拗音の表記を見て音声化できることを目標に、音読を行った。	鄭紅	【前半】 楊凌眉(指導補助) 侯翼君(保育) 【後半】 譚穎楠(指導補助) 卡士菲(保育)
7	令和元年7月13日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 303号室	11	クリーニング店	クリーニング店が利用できることを目標に、曜日を言う練習やしがあることを伝える表現を練習し、教師とロールプレイを行った。 【読み書き】デパートや駅などにある長音の表記を見て音声化できることを目標に、音読を行った。	【前半】 丸山将英 【後半】 冷俊俊	【前半】 冷俊俊(指導補助) 卡士菲(保育) 【後半】 丸山将英(指導補助)
8	令和元年7月20日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 303号室	16	レストラン① (入店)	レストランで店員と入店時のやりとりができることを目標に、人数の言い方や待ち時間を尋ねる表現を練習し、学習者同士でロールプレイを行った。 【読み書き】様々なレストランのメニューを読み取り、予算内で注文するタスク活動を行った。	【前半】 卡士菲 【後半】 侯翼君	【前半】 侯翼君(指導補助) 杜炳萱(保育) 【後半】 卡士菲(指導補助) 丸山将英(保育)
9	令和元年7月27日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 南1号館 103号室	15	レストラン② (注文・会計)	料理を選んで注文することができることを目標に、料理名がわからない際の注文表現や会計を依頼する表現を練習し、学習者同士でロールプレイを行った。	【前半】 楊凌眉 【後半】 譚穎楠	【前半】 譚穎楠(指導補助) 李娜(保育) 【後半】 楊凌眉(指導補助) 侯翼君(保育)
10	令和元年8月3日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 303号室	11	レストラン③ (実践)	①自律的、継続的な日本語学習を行うために設定した中・短期目標の達成度を自己評価した。 ②近隣の飲食店に行き、教室内で学習したレストランでの店員とのやりとり(入店・注文・会計)を実際に行い、達成度を自己評価した。	【前半】 冷俊俊 【後半】 地引愛	【前半】 地引愛(保育)＜無償＞ 【後半】 岩田香里(保育)
11	令和元年8月24日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 303号室	10	近所の人との会話 ② (週末にしたことについて)	①自律的、継続的な日本語学習を行うために、前回自己評価した中・短期目標を基に、再度学習ポートフォリオを使用し、短期目標を設定した。 ②近所の人や職場の人と簡単な会話ができたことを目標に、週末したことを尋ねる表現や自分がよく行うことを伝える表現を練習し、学習者同士で、実際に週末に行ったことを尋ね合う活動を行った。	【前半】 地引愛 【後半】 譚穎楠	【前半】 丸山将英(保育) 【後半】 杜炳萱(保育)

12	令和元年8月31日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 303号室	13	地震・火災① (避難指示)	避難時に適切な行動をとれることを目標に、よく使われる表現を聞きとる練習を行い、簡易的な避難訓練を行った。	<全て無償> 田村梨奈 内藤澤那 星ももか	冷俊俊(指導補助) 【前半】 譚穎楠(保育) 【後半】 侯翼君(保育)
13	令和元年9月7日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 303号室	13	地震・火災② (防災グッズの購入)	防災グッズを購入できることを目標に、グループで非常用持ち出し袋に入れるものを考え、相談し、発表した。	<全て無償> 後藤紗英 飯島みなみ 土田涼平	地引愛(指導補助)<無償>
14	令和元年9月14日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 303号室	10	レストラン④ (予約)	電話でレストランの予約ができることを目標に、希望する日にちや時間を言う練習をし、教師とロールプレイを行った。	<全て無償> 李維特 多山亜沙緋 宮森のぞみ 森田愛美	【前半】 楊凌眉(保育) 【後半】 卡士菲(保育)
15	令和元年9月21日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 303号室	14	交番 (忘れ物センター)	交番や忘れ物センターで紛失物と紛失状況について簡単に説明できることを目標に、なくした財布の色や形、特徴に関する表現を練習し、教師とロールプレイを行った。 【読み書き】携帯電話で簡単な言葉を入力できることを目標に、フリック入力の方法を知り、自身の名前の入力をした。	冷俊俊	【前半】 譚穎楠(指導補助) 卡士菲(保育) 【後半】 岩田香里(保育)
16	令和元年9月28日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 303号室	12	消防車・救急車① (119番通報訓練)	119番に電話し、消防車及び救急車を呼べることを目標に、名前や住所、状況に関する質問に答える練習をし、教師とロールプレイを行った。 【読み書き】携帯電話であいさつやお礼など、短い文を入力できることを目標に、フリック入力で入力する練習をした。	【前半】 楊凌眉 【後半】 岩田香里	【前半】 岩田香里(指導補助) 冷俊俊(保育) 【後半】 楊凌眉 譚穎楠(保育)
17	令和元年10月5日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 303号室	15	消防車・救急車② (消防署連携授業)	119番に電話し、消防車及び救急車を呼べることを目標に、通報訓練用の電話を使用し、東京消防庁目白出張所の消防士と通報訓練を行った。	【前半】 楊凌眉 【後半】 岩田香里	【前半】 岩田香里(指導補助) 【後半】 楊凌眉(指導補助)
18	令和元年10月19日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 303号室	16	病院① (診察)	診察でのやりとりができることを目標に、症状の表現や医師からの指示表現を聞いてわかる練習をし、教師とロールプレイを行った。	【前半】 譚穎楠 【後半】 岩田香里	【前半】 岩田香里(指導補助) 冷俊俊(保育) 【後半】 譚穎楠(指導補助) 卡士菲(保育)
19	令和元年10月26日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 303号室	9	病院② (保健センター連携授業)	初診受付と診察のやりとりができることを目標に、初診であることを伝える表現を練習し、症状の表現や医師からの指示表現を復習した。最後に、実際に医療に携わる方を相手に診察場面のロールプレイを行った。	【前半】 譚穎楠 【後半】 岩田香里	【前半】 岩田香里(指導補助) 【後半】 譚穎楠(指導補助)
20	令和元年11月9日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 303号室	10	近所の人との会話 ③ (趣味について)	①自律的、継続的な日本語学習を行うために設定した中・短期目標の達成度を自己評価し、新たな目標を設定した。 ②近所の人や職場の人と簡単な会話ができることを目標に、趣味に関する表現を練習し、学習者同士で、自分の趣味について尋ね合う活動を行った。	地引愛	岩田香里(指導補助) 石原早恵(保育)
21	令和元年11月16日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 303号室	13	買い物② (花屋)	花屋が利用できることを目標に、色や購入目的に関する表現などを練習し、教師とロールプレイを行った。 【読み書き】SNS上で友人や教師と簡単なやりとりができることを目標に、本教室のインターネット上のコミュニティスペースの写真にコメントを投稿した。	地引愛	譚穎楠(指導補助) 【前半】 新藤久乃(保育) 【後半】 清宮葉月(保育)

22	令和元年11月30日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 303号室	10	買い物③ (試着)	服や靴が買えることを目標に、試着の依頼表現などを練習し、学習者同士でロールプレイを行った。 【読み書き】電子メールで欠席と遅刻のメッセージを送れることを目標に、メールの構成やよく使われる表現を知り、メールを作成した。	楊凌眉	冷俊俊(指導補助) 【前半】 新藤久乃(保育) 【後半】 清宮葉月(保育)
23	令和元年12月7日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 303号室	17	近所の人との会話④ (おすそめを尋ねる)	近所の人や職場の人と簡単な会話ができることを目標に、すすめられた観光地への行き方や所要時間を尋ねる表現を練習し、当日教室にいた見学者におすそめの観光地を尋ねる活動を行った。 【読み書き】駅の電光掲示板でよく見る表示を読み取れることを目標に、代表的な漢字の形と意味を知り、電光掲示板の表示を読み取る練習を行った。	冷俊俊	楊凌眉(指導補助) 【前半】 新藤久乃(保育) 【後半】 清宮葉月(保育)
24	令和元年12月14日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 303号室	18	近所の人との会話⑤ (食事やイベントに誘う)	近所の人や職場の人を催し物に誘うことを目標に、誘いや断りの表現を練習し、実際のチラシを使用しながら学習者同士でイベントに誘う活動を行った。 【読み書き】申込書の何をどこに書くか分かることを目標に、代表的な漢字の形と意味を知り、様々な申込書から書く項目の読み取りをした。	譚穎楠	岩田香里(指導補助) 【前半】 新藤美樹(保育) 【後半】 新藤久乃(保育)
25	令和元年12月21日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 303号室	17	近所の人との会話⑥ (長期休暇の予定について)	相手との関係を考慮しつつ、休暇の予定について話せることを目標に、動詞の活用を練習し、学習者同士で長期休暇の予定について聞き合う活動を行った。 【読み書き】申込書の形式に関わらず、生年月日が正しく記入できることを目標に、和暦の意味と漢字の形を知り、様々な申込書に生年月日を記入した。	地引愛	楊凌眉(指導補助) 【前半】 新藤美樹(保育) 【後半】 石原早恵(保育)
26	令和2年1月11日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 303号室	13	近所の人との会話⑦ (お土産を渡す)	相手の背景に考慮して土産を渡せることを目標に、味や中身に関する表現を練習し、自文化で一般的なお土産の写真を見せながら、紹介する活動を行った。 【読み書き】申込書に必要な事柄を記入をする活動を行った。	【前半】 楊凌眉 【後半】 地引愛	冷俊俊(指導補助) 新藤美樹(保育)
27	令和2年1月18日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 303号室	21	文化紹介 (イベント)	実物を見せながら、自文化の食べ物や飲み物を簡単に説明し、質問に受け答えをする文化紹介イベントを行った。学習者の家族や友人、区民ひろば目白の関係者や地域住民が参加し、学習者による説明等についてやりとりを行った。 * 受講者内訳: 学習者8人、一般参加者13人名(内、子ども4人)	地引愛 楊凌眉 冷俊俊 譚穎楠 岩田香里	新藤美樹(保育) 石原早恵(保育) 清宮葉月(保育)
28	令和2年1月25日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 南1号館 103号室	5	コミュニティ参加① (コミュニティ探し)	本教室修了後に、他の日本語教室や地域のコミュニティに参加することを目標に、地域のサークルのホームページの読み取りや主催者への連絡に必要な表現を練習し、修了後にいきたいコミュニティを探す活動を行った。	譚穎楠	岩田香里(指導補助) 新藤久乃(保育) 清宮葉月(保育)
29	令和2年2月1日(土) 10:00～12:30	2.5	学習院大学 北1号館 303号室	6	コミュニティ参加② (自己紹介)	①修了後に、他の日本語教室や地域のコミュニティに参加することを目標に、場面に合わせた自己紹介を行う練習をした。 ②設定した中・短期目標の達成度を自己評価し、学習者間で評価やアドバイスをを行った。また、本教室修了後、日本語学習を継続的・自律的に行うために、どんなことをするかを発表し、共有した。	冷俊俊	楊凌眉(指導補助) 譚穎楠(指導補助)

30	令和2年2月15日(土) 10:00～13:00	3	学習院大学 北1号館 408号室	7	コンサルテーションの実施	希望した学習者を対象に、日本語能力の自己評価、「とよた日本語能力判定」の対象者判定テストによる客観的な日本語能力評価を行った。 その結果を基に、これからの日本語学習や日本の生活について講師と話し合うコンサルテーションを行った。 *日本語能力判定は、2人1組で実施するのが望ましいと考え、指導者5人、指導補助1人で行った。 *「とよた日本語能力判定」の対象者判定テストは通常コース開始段階に使用されるが、レベル0～2以上の判定が可能である。当クラスの学習者を判定するレベルに合っていると考え、コース終了時期であったが、四技能の日本語能力を判定するために使用した。	地引愛 楊凌眉 冷俊俊 譚穎楠 岩田香里	侯翼君(指導補助) 新藤久乃(保育) 清宮葉月(保育)
----	-----------------------------	---	------------------------	---	--------------	---	----------------------------------	-----------------------------------

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第2回 令和元年6月8日～第29回 令和2年2月1日】

「自律的・協働的学びの促進」の一環として、学習ポートフォリオやインターネットSNSシステムを利用して、教室外での自己の学習や学習方法、日本語で行った行動について、学習者間で共有する活動を第2回から29回まで通じて行った。

この活動は、教室外での日本語学習を促進すると共に、教室がひとつのコミュニティとして形成されていくことをねらい、実施した。

(写真:左)学習者が数名のグループになり、教室外の学習についてインタビューしているところ

(写真:右)教師が学習者がインターネット上のSNSに掲載した教室外の活動の写真を、教室のメンバーに共有しているところ



○取組事例②

【第27回 令和2年1月18日:文化紹介イベントの開催】

「社会の一員となることを意識できる活動」の一環として、文化紹介イベントを行った。

学習者たちは、日本で生活し、コミュニティの参加や形成を行う過程で自分の文化を紹介する機会に遭遇することがある。その備えとして、自文化の食べ物や飲み物を紹介することを目的にイベントを開催した。

一般参加者として、学習者の家族や友人のほか、地域に根差したコミュニティスペースである「区民ひろば目白」関係者(区民ひろば目白のプログラム講師の方など)や地域住民を招いた。

最後には、一番おいしかった食べ物を全員で投票した。

(写真:左)学習者が、自文化の料理を紹介しながら、ふるまっているところ

(写真:中央)一般参加者(区民ひろばの関係者)の紹介をしているところ

(写真:右)参加者全員で投票をしているところ



(2) 目標の達成状況・成果

1. 基礎的な日本語能力の習得について

・各セッション終了後に行っているアンケートによると、継続的に通っていた学習者(19名)の18名が日本語が「上手になった」「まあまあ上手になった」と日本語能力の向上を感じていることがわかった。

・学習ポートフォリオの「一週間の振り返り」記入時の講師及び学習者間のやりとりの観察から、レストランの予約、クリーニング店、ケーキ屋など生活の行動範囲、つまり日本語の使用範囲がひろがっていることがわかった。また、文字学習やスマホを利用した日本語入力方法を学んだ結果、日本語でメッセージのやりとりをするようになったという声もあった。生活を広げるための日本語、コミュニケーションの機会や方法を豊かにする日本語を、少しずつではあるが身につけることができた。

・第30回には、これまで、及びこれからの日本語学習や日本の生活について講師と話し合うコンサルテーションを希望者7名に対しておこなった。コンサルテーションの一環として、日本語能力の客観的な評価を行うために、「とよた日本語能力判定」の「対象者判定テスト」を実施した。対象者判定は本来、コース開始時に実施するもので、未学習段階(レベル0)から要支援段階(レベル2)までの判定をすることができる。本クラスの学習者がレベル2に達しているか判定しなかったため、「対象者判定テスト」を使用した。その結果、継続的に通っていた学習者で、「聞く」「話す」の能力が教室に通い始めた時点で未学習段階(レベル0)だった学習者(2名)は、2名とも要支援段階(レベル2)程度の日本語能力への伸長が見られた。また、継続的に通っていた学習者で、教室に通い始めた時点で「聞く」「話す」能力が基礎段階(レベル1)だった学習者(1名)は、要支援段階(レベル2)以上程度の日本語能力への伸長が見られた。「読む」「書く」の能力に関しては、教室に通い始めた時点で未学習段階(レベル0)だった学習者(2名)のうち、1名は限りなく要支援段階に近い基礎段階(レベル1)、もう1名は要支援段階(レベル2)程度の日本語能力への伸長が見られた。教室に通い始めた時点で「読む」「書く」能力が基礎段階(レベル1)だった学習者(1名)は、要支援段階(レベル2)以上程度の日本語能力への伸長が見られた。

コンサルテーションを行った他の4名は第1～2セッションには教室に参加していなかったため、能力の伸びについて明らかにすることはできない。尚、彼らのコンサルテーション時のレベルは、「聞く」「話す」に関しては、4名が基礎段階(レベル1)、「読む」「書く」に関しては、3名が基礎段階(レベル1)、1名が要支援段階(レベル2)であった。

2. 自律的・協働的に学び続けるための能力の養成について

・1で述べたように、文字学習やスマホでの日本語入力方法の学習をしたことにより、わからない日本語について調べたり、日本語で発信してコミュニケーションの機会を増やしたりすることが可能となった。自律的に学ぶための能力を部分的に獲得したと捉えられる。

・学習ポートフォリオの日本語学習に関する記録を行う過程で、学習者から「学習時間が短いことに気が付いた」「長く学習していても、学習の仕方が重要」「ひとりではなく、子どもと一緒に勉強すると身につくことに気づいた」などの声があった。その中の一部の学習者には、学習時間の増加や学習方法の変更など、その後の日本語学習への取り組み方に変容があり、自律的・協働的に学習し続けるという側面において、一定の成果があったといえよう。

3. コミュニティの参加・活用・形成について

・教室の終了が近づくとともに、教室で親しくなった学習者を誘い、他の日本語教室へ参加する様子がみられた。これは本教室がひとつのコミュニティとして形成されていったからではないかと思われる。また、一部の学習者から、近所の人との関わりに関する授業内容を子どもが通う保育園や区民ひろばで実践し、保護者の知り合いをつくり、SNSやメール等で連絡を取り合うなど、教室外でのコミュニティの形成・参加ができたという報告があった。

・教室外でのコミュニティ形成の機会が少ない学習者は、教室での近所の人との関わりに関する授業を通して、地域や職場など周囲の人々と関わりを持つために自ら積極的に日本語で話しかける必要があるなどの発言があり、コミュニティや社会参加の重要性を自覚し始めた様子がみられた。

以上のようなことから、コミュニティの参加・活用・形成への意識の高まりがあったといえる。

4. 地域関係者との連携

・従来通り、東京消防庁豊島消防署目白出張所との連携授業、近隣の飲食店の協力を得ての実践活動などを行った。同時に、今年度は、文化紹介イベントを通して、区民ひろば目白とつながりを持つことができた。文化紹介イベントの広報を始め、区民ひろば目白の関係者紹介などの協力を得て、イベントに区民ひろば目白の講座講師や地域住民を招くことができた。参加者からは異文化に対する理解、日本語学習への理解、異なる言語・文化の中での生活の苦勞に対する共感などの声が聞かれ、外国人住民に対する理解における成果があったと考えられる。

(3) 今後の改善点について

1. 基礎的な日本語能力の習得と自律的・協働的に学び続けるための能力の養成について

日本語能力の向上がみられた学習者は、継続的な参加をしていた学習者に限られる。また、上記の2で示したような、自律的・協働的に学び続けるための気づきがあった学習者も継続的な参加をした学習者であった。日本語能力の向上や学ぶ力の獲得のためには、継続的な参加が鍵となることは言うまでもないが、在住外国人の多くは、家庭の事情や経済的な理由から、日本語学習の優先順位が低くなりがちで、継続が困難である。春節など文化的・民族的に重視されている年中行事前後には、一定期間、教室の参加率が下がる。遠隔参加が可能なビデオ会議システムを用いるなど、休まずに参加できる環境を整える必要がある。同時に、参加したくなる教室、参加のしがいがある教室を作るための工夫もさらに具体化していきたい。

2. コミュニティの参加・活用・形成について

豊島区は、池袋を始め近隣の地区にエスニックコミュニティが多数存在するため、日本語を用いるコミュニティとの関わりがなくとも、ある程度生活を行うことは可能である。このような環境の中で、日本語学習への動機を促進・維持するとともに、社会参加への動機を促進することは容易ではない。同時に、公的機関で行われている催しの内容や日程は、子育て世代、退職者、高齢者等を意識したものが多く、また、外国人住民も参加可能なかがわかりにくい状況である。公的機関が行う催し等を、社会参加のための一つの手段と位置付け、立場・年齢・背景に関わらず、学習者が社会の一員となることをめざして、どのような参加段階や方法があるのか、公的機関と情報交換をしつつ、模索する必要がある。

＜取組2＞（教室B）											
取組の名称		コミュニティを基盤とする自律的・協働的学びの促進－「学習院大学わくわくとしま日本語教室」－＜教室B：ぐんぐんクラス＞									
取組の目標		1. 外国籍住民が社会の一員として生活するために必要となる日本語能力の基礎を身に付ける場を設ける。 2. 公的機関、民間交流団体、各種サークル等との活動を通じ、コミュニティの中で自律的・協働的に学び続けるための能力を培う。 3. 活動を通じ、日本語及び日本社会、外国籍住民について日本人が理解を深める場を作り、双方のコミュニケーション能力の向上を図る。									
取組の内容		＜教室B：ぐんぐんクラス＞では、以下を行った。 1. 「学習院大学わくわくとしま日本語教室」の実施：多様な背景、ニーズ、生活環境に配慮した活動や教材を設計し、教室活動を行った。2016年度から実施したブラッシュアップ講座（教育人材育成のための研修）での学びを生かし、学習者が日本語の学習や使用を自律的に管理する機会、達成感のある学びの機会を多く取り入れた。 2. コミュニティの中での学び：コミュニティの参加・活用・形成を行いながら、社会の一員となることを意識できる活動、他者との活動を通じて自律的・協働的に学ぶことを実感できる活動を取り入れた。 3. 双方のコミュニケーション能力向上：外国籍住民と日本人（区民ひろば目白、サークル、本学教育学科・国際社会科学科学生等）がいずれも主体となる活動を取り入れ、相互理解を深めると同時に、それぞれがコミュニケーション能力の向上、コミュニケーションの工夫ができる機会を設けた。具体的テーマは「電車のマナー」「校則」「イベントの計画・実施」「生活の悩みの相談」「コミュニティ参加の経験」「コミュニティ探し」等。									
☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動	該当せず									
取組による体制整備		公的機関、民間団体、日本人学生等、様々な立場・年齢・背景の人々が参加し意見交換する機会を設けることにより、「日本人」対「外国人」ではない、「個人」としてのやりとりやつながりが生まれ、実生活における様々な障壁をお互いに崩していくきっかけとなった。相互理解、相互尊重がはかられ、具体的な連携体制を築いていくための下地作りが進んだと考えられる。									
取組による日本語能力の向上		日本語学習者に関しては、生活に密着した日本語だけではなく、社会参加のための日本語、社会の一員として生活するための日本語を身に付けることが可能となった。具体的には説明、同意、誘い、謝罪、助言、共感を示す、といった人と関係性を築く上で必要となる日本語や、理解確認や説明要求など意味交渉上必要となる日本語である。また、人間関係の悩みや課題を開示したり、コミュニティ参加の経験に対して共感や意見を述べたりし、コミュニティの参加・形成に向けて、協働的にコミュニケーションする能力を伸ばすことができた。日本語母語話者は、日本語を学習中の人とのやりとりの仕方・技術を知り、日本語を調整する能力を高めた。									
参加対象者		豊島区及び近隣区域に暮らす外国人、日本人					参加者数 （内 外国人数）		総数37人（22人） ＜受講者30人、（内外国人20人）＞ ＜協力者・ゲスト7人（内外国人2人）＞		
広報及び募集方法		チラシ作成・配布・配置（豊島区窓口等）。豊島区ホームページ、大学ホームページ及びFacebookによる周知をした。									
開催時間数		総時間 74.5 時間（空白地域0時間）				内訳 2.5 時間 × 1 回（第1回） 3 時間 × 22 回（第2回以降） 1 時間 × 6 回（日本人対象オリエンテーション）					
主な連携・協働先		豊島区文化商工部学習・スポーツ課生涯学習振興グループ・区民ひろば目白、区内自主サークル									
受講者の出身 （ルーツ）・国別内訳（人）	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	
	7	1			1					10	
	※該当する場合のみ 台湾（4人）、シリア（1人）、ミャンマー（1人）、ポルトガル（1人）、セントルシア（1人）、アメリカ（1人）、イギリス（1人）、ウクライナ（1人）										
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	令和1年6月20日（木） 12:15～13:15	1h	学習院大学 国際センター 会議室	2	日本人対象 オリエンテーション	外国人とともに多文化理解・コミュニケーションを学ぶ講座の第1セッションについて、各回の授業の内容を説明するとともに、外国人のレベルや国籍等、参加者の質問に答えた。後半は、外国人と話す時の言語調査について簡単な情報を提供した。		杜長俊 ＜無償＞	なし		
2	令和1年6月21日（金） 12:15～13:15	1h	学習院大学 国際センター 会議室	5	日本人対象 オリエンテーション	外国人とともに多文化理解・コミュニケーションを学ぶ講座の第1セッションについて、各回の授業の内容を説明するとともに、外国人のレベルや国籍等、参加者の質問に答えた。後半は、外国人と話す時の言語調査について簡単な情報を提供した。		杜長俊 唐木澤みどり ＜無償＞	なし		
3	令和1年7月6日（土） 10:00～12:30	2.5h	学習院大学 北1号館 304教室	13	沈黙を破る話題	知り合いに挨拶したあとの沈黙を破る話題について話し合った。その際に、選択する話題についてメンバーとの共通点・相違点を見つけ、選択する話題とその理由を説明する練習をした。		杜長俊 ＜無償＞	岩田香里（指導補助）		

4	令和1年7月13日(土) 9:45~12:45	3h	学習院大学 北1号館 304教室	12	校則	通っていた学校または子どもが通っている学校の規則について、どんな校則があるか、どうしてその校則があるかについて、グループで話し合った。グループで話したことを、自身の言葉で説明する練習をした。	【前半】 岩田香里 【後半】 崔莉莉	【前半】 崔莉莉(指導補助) 【後半】 岩田香里(指導補助)
5	令和1年7月20日(土) 9:45~12:45	3h	学習院大学 北1号館 304教室	15	食事のマナー	どんな食事のマナーがあるかについて話し合った。自国の食事マナーの内容と理由を自身の言葉で説明する練習をした。	【前半】 李娜 【後半】 唐木澤みどり ＜無償＞	【前半】 唐木澤みどり(指導補助) ＜無償＞ 【後半】 李娜(指導補助)
6	令和1年7月27日(土) 9:45~12:45	3h	学習院大学 北1号館 304教室	10	断り	誘いや依頼など、日常的な断りの経験をグループで話し合った。断る時の行動や発言についてメンバーとの共通点と相違点を見つけ、自身の言葉で説明する練習をした。	【前半】 杜長俊 ＜無償＞ 【後半】 苑権毅	【前半】 苑権毅(指導補助) 【後半】 杜長俊(指導補助)＜無償＞
7	令和1年8月3日(土) 9:45~12:45	3h	学習院大学 北1号館 304教室	11	電車のマナー	イヤホンの音漏れや、荷物の置き方等、電車のマナーについて話し合った。気になったマナーについて自身の言葉で説明するとともに、それに対して感想を言う練習をした。	杜炳萱	杜長俊(指導補助)＜無償＞
8	令和1年8月17日(土) 9:45~12:45	3h	学習院大学 北1号館 304教室	5	謝り	遅刻や仕事上のミスなど、日常的な謝りの経験について、「だれに」「いつ」「どこで」「何を言った」など、簡潔に話す練習をした。そして、謝る時の行動や発言についてメンバーとの共通点と相違点を見つけ、自身の言葉で説明する練習をした。	【前半】 張雅ティ 【後半】 杜炳萱	丸山将英(指導補助)
9	令和1年8月24日(土) 9:45~12:45	3h	学習院大学 北1号館 304教室	11	時間の感覚	家族や友人と待ち合わせする時や職場の同僚とのやりとり等、時間の感覚が違うと感じる経験を話し合った。その経験を、時間軸に沿ってわかりやすく話す練習をした。	岩田香里	張雅ティ(指導補助)
10	令和1年8月31日(土) 9:45~12:45	3h	学習院大学 北1号館 304教室	6	プレゼント	プレゼントをもらった経験を「だれに何をもらったか」「その人に何を言われたか」「どうだったか」について簡単に話す練習をした。グループの話し合いでは、メンバーの経験に対して、感想を言ったり詳しく聞いたりする活動をした。	唐木澤みどり ＜無償＞	丸山将英(指導補助)
11	令和1年9月5日(木) 14:00~15:00	1h	学習院大学 国際センター 会議室	2	日本人対象 オリエンテーション	外国人とともに多文化理解・コミュニケーションを学ぶ講座の第2セッションについて、各回の授業の内容を説明するとともに、外国人のレベルや国籍等、参加者の質問に答えた。後半は、外国人と話す時の言語調査について簡単な情報を提供した。	杜長俊 ＜無償＞	なし
12	令和1年9月6日(金) 14:00~15:00	1h	学習院大学 国際センター 会議室	3	日本人対象 オリエンテーション	外国人とともに多文化理解・コミュニケーションを学ぶ講座の第2セッションについて、各回の授業の内容を説明するとともに、外国人のレベルや国籍等、参加者の質問に答えた。後半は、外国人と話す時の言語調査について簡単な情報を提供した。	杜長俊 唐木澤みどり ＜無償＞	なし
13	令和1年9月14日(土) 9:45~12:45	3h	学習院大学 北1号館 304教室	10	仲間作り① (初対面)	初対面の際に、どんな質問がその人について知ることができるかを考える活動をした。そして、考えた質問について意見交換をした後で、お互いに質問し合う活動をした。	【前半】 杜長俊 ＜無償＞ 【後半】 岩田香里	丸山将英(指導補助) 侯翼君(指導補助)
14	令和1年9月21日(土) 9:45~12:45	3h	学習院大学 北1号館 304教室	10	ゲーム大会① (日本のゲーム)	競技かるたについて、学習院大学かるた同好会のメンバーを招き、ルールの説明を聞いて自身の理解が合っているか確認する練習をした。そして、競技かるたを練習・実践した後で、同好会のメンバーに感想を言った。	杜長俊 ＜無償＞	李娜(指導補助)
15	令和1年9月28日(土) 9:45~12:45	3h	学習院大学 北1号館 304教室	13	ゲーム大会② (自文化のゲーム)	自身の国ではやっているゲームや、子どもの時にしていたゲームを、簡単に説明する練習をした。そして、クラスメートの説明を聞いて、ルールを確認しながらゲームを実践した。	侯翼君	崔莉莉(指導補助)
16	令和1年10月12日(土) 9:45~12:45	3h	学習院大学 北1号館 304教室	17	仲間作り② (仲良くなる)	人の内面や性格の表現について、意味を確認した。教室のメンバーと新聞タワールのタスクを遂行しながら、その人の内面や性格を観察した。活動の後で、観察したその人の内面や性格を自身の言葉で説明する練習をした。	丸山将英	崔莉莉(指導補助)

17	令和1年10月5日(土) 9:45～12:46	3h	学習院大学 北1号館 305教室		イベント計画	これまでの授業を振り返り、学習の成果を話し合う練習をする。その成果を家族や友人に見せる形として、イベントの開催について意見交換を行う。 (台風により中止、順延なし)	なし	なし
18	令和1年10月19日(土) 9:45～12:45	3h	学習院大学 北1号館 304教室	17	イベント準備① (ちらし作成)	イベントのちらしにどんなことを書けばよいか相談しながら、協力して作成した。イベント準備や仕事分担等について、意見交換をした。	崔莉莉	李娜(指導補助)
19	令和1年10月26日(土) 9:45～12:45	3h	学習院大学 北1号館 304教室	13	イベント準備② (リハーサル)	家族や友人に学習の成果を見せるために、イベントで「異文化に感じる事」について、スピーチ大会を開催することにした。準備として、エピソードを話す練習を行い、スピーチの内容について意見交換をした。	李娜	丸山将英(指導補助)
20	令和1年11月2日(土) 9:45～12:45	3h	学習院大学 中央棟2階 国際センター	14	イベント	「異文化に感じる事」について、1人が3分間話すスピーチ大会を実施し、参加者の前で学習成果を見せた。その後、「競技かるた」「イギリスのゲーム」「ディスカッション」の3つのコーナーを設け、参加者と共に、ゲームや話し合いを楽しむ活動を行った。そして、参加者が持ち寄った自文化の料理を紹介し、懇親会をした。	唐木澤みどり ＜無償＞	杜長俊(指導補助)＜無償＞
21	令和1年11月21日(木) 12:10～13:10	1h	学習院大学 国際センター 会議室	3	日本人対象 オリエンテーション	外国人とともに多文化理解・コミュニケーションを学ぶ講座の第3セッションについて、各回の授業の内容を説明するとともに、外国人のレベルや国籍等、参加者の質問に答えた。後半は、外国人と話す時の言語調査について簡単な情報を提供した。	杜長俊 ＜無償＞	なし
22	令和1年11月22日(金) 12:10～13:10	1h	学習院大学 国際センター 会議室	2	日本人対象 オリエンテーション	外国人とともに多文化理解・コミュニケーションを学ぶ講座の第3セッションについて、各回の授業の内容を説明するとともに、外国人のレベルや国籍等、参加者の質問に答えた。後半は、外国人と話す時の言語調査について簡単な情報を提供した。	杜長俊 唐木澤みどり ＜無償＞	なし
23	令和1年11月30日(土) 9:45～12:45	2.5h	学習院大学 北1号館 304教室	17	知り合おう	自己紹介で話す項目を確認し、自己紹介を行った。そして、相手の自己紹介を聞いて、興味があるところを詳しく聞く活動を行った。最後に、話した相手の情報や性格等について、自身の言葉で説明する練習をした。	杜長俊 ＜無償＞	崔莉莉(指導補助)
24	令和1年12月7日(土) 9:45～12:45	3h	学習院大学 北1号館 304教室	9	変えて欲しい	友達に変えてほしいと感じる事例を読み、どこをどうして変えてほしいかという情報を読み取る練習をした。そして、グループの中で、「周囲の人に変えてほしいと思っていること」に対して、考えを述べたりどうしたらよいか話し合ったりする活動をした。	崔莉莉	丸山将英(指導補助)
25	令和1年12月14日(土) 9:45～12:45	3h	学習院大学 北1号館 304教室	13	いつもしていること	朝起きて何をするか、疲れた時に何をするかを話す練習をした。そして、お互いの共通点・相違点を見つけながら、生活リズムについて話し合う活動をした。	丸山将英	李娜(指導補助)
26	令和1年12月21日(土) 9:45～12:45	3h	学習院大学 北1号館 304教室	10	相談してみよう①	生活の悩みが書かれた文章から、「何に困っているか」「どうして困っているか」等の情報を読み取り、意見交換をした後で、自身の生活の悩みをわかりやすく話したり、他者の悩みを聞いて感想や助言を言う活動をした。	李娜	崔莉莉(指導補助)
27	令和2年1月11日(土) 9:45～12:45	3h	学習院大学 北1号館 304教室	12	私はこうする	コミュニティ参加経験が豊富な外国籍の地域住民をゲストスピーカーとして招いた。その人の話から、コミュニティ参加をする前と、した後の変化を整理する練習をした。そして、自身のコミュニティ参加の経験を振り返り、ゲストスピーカーと意見交換をした。	李娜 崔莉莉	丸山将英(指導補助)

28	令和2年1月18日(土) 9:45~12:45	3h	学習院大学 北1号館 304教室	12	コミュニティを探そう	区民ひろば目白の関係者をゲストスピーカーとして招いた。公的な施設で何ができるか、そこにどういったコミュニティがあるかをゲストスピーカーの話から整理する練習をした。そして、参加したいコミュニティを探して、そこで何ができるか、何をしたいか、情報を集める活動をした。	李娜 崔莉莉	候翼君(指導補助)
29	令和2年1月25日(土) 9:45~12:45	3h	学習院大学 北1号館 304教室	13	相談してみよう②	コミュニティ参加や人間関係の悩みが書かれた文章から、「何に困っているか」「どうして困っているか」等の情報を読み取る練習をした。そして、読み取った情報について意見交換をした後で、自身のコミュニティ参加に関わる悩みをわかりやすく話したり、他者の悩みを聞いて感想や助言を言う活動をした。	丸山将英	李娜(指導補助) 崔莉莉(指導補助)
30	令和2年2月1日(土) 9:45~12:45	3h	学習院大学 北1号館 304教室	10	これからの私	これまでの授業を振り返り、自身の生活をよりよくするために、授業で得たヒントについて話し合う活動をした。コース終了後、どんなことを努力するか計画を立てて、お互いに発表し、感想・助言を伝える活動をした。	唐木澤みどり ＜無償＞ 丸山将英	杜長俊(指導補助)＜無償＞

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第14回 令和元年9月21日】

学習院大学のかるた同好会と連携授業を行った。かるたのルールを聞いて実際にゲームを行った。これは、第11回「自文化のゲーム」の準備となることをねらった。学習院大学のかるた同好会のメンバーが、かるたのルールについて簡単な日本語で説明し、実際にデモンストレーションをした。

①写真(左):百人一首と、かるたを速く取るコツの紹介

②写真(中央):外国籍の学習者と日本人学生の実践

③写真(右):かるた同好会のメンバーによる本格的な対戦



○取組事例②

第3セッションの後半4回の授業(第27回~第30回)は、コミュニティの参加・形成・活用に関する内容であった。その中で第27回と第28回は、ゲストスピーカーがコミュニティ参加の経験話をした。

①写真(左):

【第27回 令和2年1月11日】

セントルシア出身の青木マールガレットさんは英語教室を開くほか、ママさんバレーに参加したり、地域のお祭りで阿波踊りを踊ったり、地域のコミュニティ参加を積極的に行っている。その経験を日本語と英語を交えて話した。多くの学習者が青木さんの経験に興味を示し、たくさんの質問が挙がった。尚、青木さんは当教室の2015年度の参加者である。

②写真(右):

【第28回 令和2年1月17日】

コミュニティを探そう活動をした。この回の授業では、区民ひろば目白の所長と、区民ひろばのサークルや活動に参加した経験がある地域住民に、自身の経験を話してもらった。区民ひろばのような公共施設の利用に関して、外国籍の学習者も日本人学生も興味を示し、たくさんの質問が挙がった。



(2) 目標の達成状況・成果

①コミュニケーション能力の向上

学習者のアンケートでは、「話す機会が増えて日本語の上達を感じた」「悩みを開示したり、友人の悩みを聞いたり、人間関係を深める行動ができるようになった」「前にできなかった助言や感想が言えるようになった」などの記述から、コミュニケーションに関わる能力が向上したことがわかった。話そうとしていることがうまく伝わらない時には、相手がどこまで理解したかを確認し、相手の理解の度合いを踏まえて自身の発話を言い直したり説明を加えたりするという行動が繰り返し観察されている。この行動は、話し手が外国籍の学習者である場合に限らず、日本人学生の発話が不明瞭または難しすぎる場合にも頻繁に起きている。このような行動が継続的に起こることは、学習者と日本人学生が主体的に、相互理解を深めようとした成果である。同時に、相手に合わせて自身の言語を調整するというコミュニケーション能力の向上につながる実践にもなったと考えられる。以上のことから、本取組はコミュニケーション能力の向上、コミュニケーションの工夫ができる機会の創出に、一定の成果があったと言える。

②コミュニティ参加・活用・形成

コース修了が近づくにつれて、参加者は日本語教室や卓球サークル、読書会への参加意欲を表明するようになった。修了後、アラビア語の勉強会を開くなど、自らのコミュニティを立ち上げ、コミュニティの形成・活用に積極的に関わり始めた。また、コミュニティ参加の経験を話す回では、外国籍の地域住民として地域社会に溶け込んだ自身の経験を話した人もいた。地域のコミュニティに参加する過程や努力を他者に発信する行動が、地域の多文化理解の促進への貢献にもつながり、社会参加の幅を広げることができたのではないかと考える。

③意見の多様性を促す

人間関係の悩みやコミュニティ参加の問題等の事例から、当事者たちの課題の捉え方の違いを読み取る活動をした。参加者が当事者たちの捉え方の理解を述べることによって、ひとつの正解のような答えを出すよりも、できるだけ多様な意見を引き出すスタイルの話し合いへ発展していった。同時に複数の観点から話し合いが行われるようになり、多様な意見を引き出す取り組みとして、成果があったといえる。

(3) 今後の改善点について

①レベルの差

様々なレベルの学習者が参加し、互いのコミュニケーション能力を高め合うことを目標としたが、日本語の学習経験や能力が比較的に低い人は継続的に参加することができなかった。個人的な事情等も考えられるが、やりとりの内容が理解できない場合、話の流れを止めて、意味を確認したり説明を要求したりできるような、レベルの差があっても話し合いができる仕掛けが授業内で提供されていない点が課題である。今後は、レベルの差に関係なく、相手の言語調整を積極的に要請してよいという教室の方針を確立する必要があると思われる。同時に、授業を進める指導者が、いかにその日の話題やゴールをわかりやすく示すかも課題である。

②言語調整の学び

日本人学生へのアンケートでは、異文化理解や、コミュニティ参加の経験など、内容面において勉強になったとの意見が数多くあった。一方で、言語調整については、意識している人と、そうではない人に分かれており、日本人学生の言語調整の学びに関して各自の努力や意識に任せていることが分かった。「やさしい日本語」に調整する技術や異文化理解を示す態度、話し合いでのファシリテーション能力等、日本語学習を支援するための能力と意識を養成できるようなプログラムを設計・実施する必要がある。

③地域住民の参加

コミュニティ参加・活用・形成に関して、地域住民は授業2回分のゲストスピーカーとしての参加にとどまった。地域住民との話し合いの機会を継続的に設けることで、地域のコミュニティの参加・活用・形成をより多様な形で実現することができるのではないかと考える。

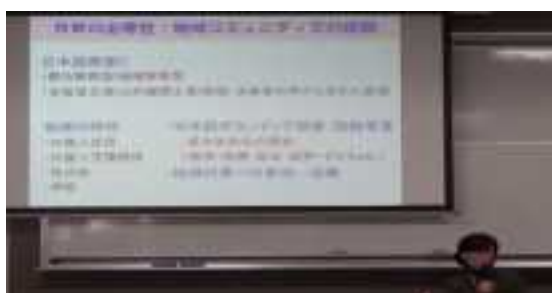
＜取組3＞											
取組の名称		シンポジウム「コミュニティに根差した日本語学習の可能性－豊島区における日本語教育ネットワークの確立を目指して－」の開催									
取組の目標		1. 「豊島区日本語教育ネットワーク会議(仮)」の報告と、「見取り図(案)」についての意見交換を通じ、地域における日本語学習・教育についての状況を共有する 2. 事例紹介と講演を通じて、日本語学習におけるコミュニティの重要性について考える									
取組の内容		豊島区内に日本語教育のネットワークを築くことの意義を広く伝え、理解を促すため、取組1の成果を報告すると同時に、豊島区内の日本語教育・学習支援の実際について紹介した。また、東海地域のネットワーク活動において中心的に活動している地域日本語教育の専門家による講演を行い、ネットワーク形成の意義と課題を学んだ。今回、新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえ、シンポジウムの開催は取りやめ、予定していた内容を可能な範囲で動画化し、配布資料とともに参加申込者に一定期間提供した。当初予定した内容は、以下の通り。 1. 趣旨説明：豊島区における日本語教育のネットワーク作りについて(金田) 2. 豊島区外国人施策の現状(豊島区政策経営部企画課多文化共生推進グループ企画担当係長 大鶴美奈子) 3. 2019年度の活動報告(唐木澤・岩田) 4. 豊島区内日本語教育機関活動紹介(1)豊島区教育センター「日本語指導教室」(日本語指導教室班長 野瀬博)、(2)学習院大学わくわくとしま日本語教室(杜長俊) 5. 豊島区内日本語学習支援団体紹介 6. 講演「ネットワークは何をめざすか」(東海日本語ネットワーク副代表 米勢治子) 7. 来年度に向けて：意見交換、今後の計画(金田)									
☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動	該当せず									
取組による体制整備		2019年度の成果である「日本語ネットとしま」と「豊島区日本語学習環境マップ」について公開することにより、「日本語ネットとしま」の関係者のみならず、一般の住民にも当事者意識を持ってもらえる機会を提供した。開催はかなわなかったため、参加者間での意見交換はできなかったが、本シンポジウムについてはチラシ及びHPなどを通じて広報し、「日本語ネットとしま」の存在やその趣旨について知る人は増えたと考える。									
取組による日本語能力の向上		本取組において、日本語習得に関する直接的な効果は目的としない。									
参加対象者		「日本語ネットとしま」構成員、豊島区及び近隣地域在住の住民					参加数 (内 外国人数)		73人(11 人) * シンポジウム中止のため、参加申込者数を記入		
広報及び募集方法		チラシを作成し、郵送、持参、メールの他、豊島区の協力により配布し、豊島区学習・スポーツ課窓口等関連施設に配置した。さらに豊島区ホームページ、大学ホームページ、日本語教育や多文化共生、異文化理解関係のMLにより周知した。									
開催時間数		総時間 3.5時間 (空白地域 0 時間)			内訳 3.5時間 × 1回(シンポジウム中止のため予定時間を記入)						
主な連携・協働先		豊島区文化商工部学習・スポーツ課生涯学習振興グループ、豊島区教育センター、豊島区教育委員会、区内日本語教室、各種自主サークル									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネ シア	ペルー	フィリピン	日本	
	9人										62人
※該当する場合のみ		シリア(1人)、台湾(1人)									
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	令和2年2月29日(土) 14:00～17:30	3.5	学習院大学 西5号館 302(シンポ ジウム予定 会場) * 中止のた め映像資料 公開	73	コミュニティに根 差した日本語学 習の可能性	1. 趣旨説明(ビデオ) 2. 豊島区外国人施策の現状(事情により中 止) 3. 2019年度の活動報告(ビデオ) 「日本語ネットとしま」について 「区内日本語教育機関調査と日本語学習環 境マップについて」 4. 豊島区内日本語教育機関 活動紹介(ビ デオ) (1)豊島区教育センター「日本語指導教室」 (2)学習院大学わくわくとしま日本語教室 5. 豊島区内日本語学習支援団体紹介:ポ スター発表(ビデオ及び画像) 6. 講演「ネットワークは何をめざすか」(ビ デオ) 7. 来年度に向けて(ビデオ)		講師:米勢治 子(講演)	発表者:金田智子、唐木澤みど り、岩田香里、野瀬博、杜長俊、 深谷幸紀、全嘉楽、加藤綾那、 大西羅允、関根千紘、地引愛、 益子亜明 補助者:冷俊俊、譚穎楠		

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

豊島区における日本語教育ネットワークの確立に向けて、東海日本語ネットワーク副代表の米勢治子氏が、「ネットワークは何をめざすか」という題目で講演を行った。米勢氏は、教室内ネットワーク、教室間ネットワーク、地域ネットワーク等について、自身の経験及び東海日本語ネットワークでの経験から「学習者とともに地域づくりに貢献する」という理想に向けて、ネットワークを構築するための具体的な手順や方法を話した。講演の様子は、動画サイトの活用を通して、シンポジウムの参加申込者に配信された。

- ①写真(左)冒頭の挨拶
- ②写真(右)地域ネットワークの経験



○取組事例②

豊島区内日本語教育ネットワークの確立と豊島区内の日本語学習支援団体の情報共有を目指すため、NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク、池袋日本語サークル、立教日本語教室、立教大学の放課後学習支援、学習院大学日本語教室、学習院大学わくわくとしま日本語教室等が、日々の活動を紹介した。各団体は、ポスターを用いて、活動の様子を紹介した。団体の紹介映像は、動画サイトの活用を通して、シンポジウムの参加申込者に配信された。

- ①写真(左)池袋日本語サークルの紹介
- ②写真(右)立教大学の放課後学習支援の紹介



(2) 目標の達成状況・成果

・シンポジウム自体は、新型コロナウイルス感染拡大状況を踏まえ、公開実施は中止となったが、映像資料によって「日本語ネットとしま」及び「豊島区日本語学習環境マップ」の報告を行うことで、シンポジウム参加予定者の皆さんと地域における日本語学習・教育についての状況を共有する機会を提供することができた。

・区内日本語教育機関の事例紹介、ポスター発表及び、他地域の日本語教育ネットワークに関する講演を通じて、日本語学習におけるコミュニティの重要性について考える機会を提供した。

・映像資料を見た参加予定者からは、「幅広く皆さんが取り組んでおられる事を知り、大変参考になりました」等の感想が寄せられ、今回の映像資料提供が、日本語学習・教育についての状況を共有する機会として、また日本語学習におけるコミュニティの重要性について考える機会として一定の成果が得られたと考えられる。

・映像資料による情報共有は当初の予定にはなかったわけだが、活動内容を幅広く普及する上では、有効な手段の一つだと考えられる。今後のシンポジウム開催、情報普及の在り方を検討する上で、有用な経験となった。

(3) 今後の改善点について

今年度は、シンポジウムが中止となったことにより、本来予定していた参加者との意見交換ができなかった。来年度のシンポジウムでは十分意見交換ができる時間を設けるようにすると同時に、取組1において、さらに多くの方々の意見が吸収できるように心がけたい。また、今回は、シンポジウムで予定されていた講演や報告、紹介等を映像及び配布資料を提供し、感想や意見を求める呼びかけにとどまったが、今後は中止になった場合にも意見交換が可能な方法を検討していく必要がある。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

豊島区及びその近隣区域の外国籍住民(日本語学習を必要とする生活者)が、社会(コミュニティ)の一員となるために必要な日本語を身に付けることができる学習環境作りを行う。年齢、滞在目的、レディネス等に左右されることなく、コミュニティへの参加や新たな仲間づくりが可能となるよう、域内において切れ目のない支援体制、日本語教育体制を築く。以上を目標に、2019年度はその第一段階として区内日本語教育機関・組織の情報を共有すると同時に、日本語教室においては学習環境整備に向けた新たな試みを行い、その内容・方法の共有化のための下地作りを行う。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

＜取組1＞豊島区の日本語教育ネットワーク会議として「日本語ネットとしま」を立ち上げ、今年度計3回開催したことで、初めて区内の日本語教育関連団体間で意見交換、情報交換をすることができ、課題を共有することができた。日本語学習者として、大人だけでなく子どもについても現状と課題を共有できた。また、課題共有の内容としても、日本語教育だけでなく、外国籍区民の生活上の問題や多文化共生、相互理解の必要性などの広がりがあった。これは、目標である多様な外国籍住民が地域社会の一員として、安全かつ快適な生活を送れるようになるための日本語学習環境を考えるうえで重要な成果であった。区内日本語教室と子ども向け学習支援教室の調査を行い、区内日本語教育について、団体・組織の観点から現状と課題をまとめることができた。調査結果に基づき、「豊島区日本語学習環境マップ」を8言語で作成し、区内の多くの外国籍区民に活用してもらえるものとなった。マップは、区内の日本語学習環境の「見える化」をもたらし、これに、今後予定している外国人住民への調査結果を加えて分析・考察することで、学習環境改善のための具体的方策の検討が可能となると考えられる。

＜取組2＞①自己評価や客観的評価により日本語能力が向上したことがわかり、一定の成果があったと考えられる。また、教室内のやりとりでは、話そうとしていることがうまく伝わらない時には、相手がどこまで理解したかを確認し、相手の理解の度合いを踏まえて自身の発話を言い直したり説明を加えたりするという行動が繰り返し観察されている。これらの行動は、コミュニティの一員になるために必要な日本語を身につける過程の実践・成果であると考えられる。②教室外での学びをSNSや教室内で学習ポートフォリオを用いて共有することで、一部の学習者には、学習時間の拡大や学習方法の模索など、学習態度に変容がみられ、自律的・継続的に学ぶ力の養成において一定の成果があった。③従来の消防署や近隣の飲食店などに加え、区民ひろばなど新たな連携先を開拓したことにより、学習者が地域のコミュニティへ参加の意欲を示したことも成果のひとつと言えるだろう。また、コミュニティ探しの活動を通して、学習者が日本語教室、各種サークル、体育館や公民館等の公的施設の利用に対する意欲が引き出され、コース終了後にコミュニティの参加・形成に関わり始めた事例もあった。

＜取組3＞シンポジウムは、新型コロナウイルスの影響によりやむなく中止となったが、シンポジウムで予定していた「日本語ネットとしま」及び「豊島区日本語学習環境マップ」の報告や、区内の日本語教育機関の事例紹介、区内日本語学習支援団体のポスターによる活動紹介やネットワークに関する講演を映像資料として公開することにより、限定的な範囲ではあるが、内容を普及することができた。映像資料を見た参加予定者からは、幅広い取り組みを知り参考になった等の感想が寄せられ、情報共有、コミュニティの重要性を考える機会として一定の成果が得られたと考えられる。

(3) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

＜取組1・3＞準備段階から、豊島区文化商工部学習・スポーツ課生涯学習振興グループ及び経営政策部企画課多文化共生推進グループに相談し、アドバイスや情報提供、意見交換等、連携しながら事業を進めた。生涯学習振興グループには、シンポジウムの広報についても、区報やHPへの記事掲載、チラシ配布・配置等で協力を得た。また、「日本語ネットとしま」参加の17団体とも、区内の状況に関する情報交換や、調査への協力、「豊島区日本語学習環境マップ」作成のための情報交換・意見交換、シンポジウムでの団体紹介のポスター発表準備、シンポジウム中止に伴う発表等のビデオ撮影等、さまざまな協力があつた。会議では、回を重ねるにつれて、情報や意見の交換がスムーズになり、連携協力の可能性が広がっていく。

＜取組2＞従来通り、東京消防庁豊島消防署目白出張所との連携授業、近隣の飲食店の協力を得ての実践活動などを行った。文化紹介イベントでは、広報を始め、区民ひろば目白にご協力いただき、関係者や地域の方にお越しいただいた。コミュニティ参加については、区民ひろば目白にご協力いただき、コミュニティ参加の地域住民の経験を学習者と共有する活動ができた。日本語教育や外国籍住民と直接の接点のない団体や組織と連携協力して授業等を行う機会が増え、相互理解が進むと同時に、新たな連携先につなげていく可能性が生まれている。

(4) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

＜取組1＞「日本語ネットとしま」に関しては、豊島区担当部署や教育センター、社会福祉協議会、区内日本語教室、NPO等へ、必要に応じて訪問、電話、メール等により、ネットワーク会議の趣旨や目的等を説明し、ご理解いただいた上で参加していただいた。毎回の会議の前に案内状を作成して送付し、出欠を確認した。また、「豊島区日本語学習環境マップ」は、先述の通り、豊島区役所他関係各所に配布・配置し、豊島区HP及び大学HPからダウンロードできるようにした。

＜取組2＞豊島区HP及び大学HPを通じて広報を行った。また、幼保小中学校や区内日本語教室にチラシを配るなどして、事業の周知をはかっている。また、facebookを開設しており、随時、情報及び実施状況を掲載し、広報に努めている。また、いずれにおいても豊島区在住外国人の国籍内訳に応じ、可能な限り複数言語で対応している。

・昨年度に比べ、学習者が大幅に増加したこととして、チラシに教材の一部を掲載したこと、学習・スポーツ課の窓口で広報していただいたことが挙げられる。学習者が本教室を知ったきっかけは豊島区HPが一番多く、今後も豊島区との協力をはかっていきたい。

＜取組3＞事業成果の発信の場として、シンポジウムを開催するにあたり、豊島区の協力を得て区HPや区報への掲載、区立保・幼・小・中学校他区内施設への配布を行い、大学においてはHPへの掲載、ポスター掲示を依頼した。その他「日本語ネットとしま」メンバーを通じた広報や、昨年度まで行っていた研修等への参加者への広報、日本語教育や多文化共生、異文化理解関係のMLによる周知を行った。参加申込の方法として、メール、FAX、Googleフォームの3種類を用意し、誰でも申し込みしやすいように配慮した。73名が参加申し込みを行った。

(5) 改善点、今後の課題について

＜取組1＞今年度より始まった「日本語ネットとしま」では、会議、調査、マップ作成、シンポジウム準備等を通して協力関係を築いてきたが、さらなる連携の強化と参加団体の拡大が必要である。また、外国籍住民グループにも参加してもらうことにより、当事者の声を反映した日本語学習環境の改善を検討する必要がある。今年度の成果である「豊島区日本語学習環境マップ」のさらなる普及や改訂の検討も行っていく。今年度は日本語教育関連機関に調査を行ったが、来年度調査においては外国籍住民を直接の対象とし、日本語使用・学習の実情や要望を把握することにより、区内日本語学習環境の改善のための具体的方策が検討できると思われる。

＜取組2＞①日本語能力の向上は継続的な学習者に限られること、学習態度や学習方法の変容が一部の学習者に限られることなどから、自律的・協働的な学ぶ力の養成に関しては、今年度の課題を分析し、授業の内容や方法を再検討する必要がある。また、日本語能力が十分ではない学習者が、日本人学生と共に学ぶような教室で、他者とのレベルの差がマイナス要素にならないような環境づくりを行っていく。②コミュニティ参加に関しては、本教室に通う学習者が多く在住している地域は、近隣の地区にエスニックコミュニティが多数存在するため、日本社会との深い関わりがなくとも、ある程度生活を行うことは可能である。このような環境の中であっても、日本語学習への動機を高めることや、社会参加への動機を高めることが可能となるよう、個々の日本語使用の実態や学習ニーズを踏まえつつ、日本社会の一員としての外国人の日本語をどう捉えるべきかを十分に検討し、日本語教育を展開していく。また、外国籍住民の社会参加の実態を調査を通して明らかにするとともに、彼らの事情・背景・日本語能力に合った社会参加の方法や場所について各種の公共機関と連携し、検討し、具体化していく。

＜取組3＞来年度は、日本語教育や学習支援に直接の関わりがない一般参加者を交えた意見交換の機会を十分作り、日本語教育連携体制や日本語学習環境整備に結び付けたい。

(6) その他参考資料

1. 2019年度_ぐんぐんチャリ_セッション1_学生版
2. 2019年度_ぐんぐんチャリ_英語版
3. 2019年度_ぐんぐんチャリ_繁体字版
4. 2020年度_ぐんぐんチャリ_日本語版
5. 2019年度_ぐんぐん日本人学生へのアンケート
6. 2019年度_わくわく・ぐんぐんクラス_学習者アンケート
7. 2019年度_わくわくチャリ_英語版
8. 2019年度_わくわくチャリ_ミャンマー語版
9. 2019年度_わくわくチャリ_ネパール語版
10. 2019年度_わくわくチャリ_ベトナム語版
11. 2019年度_わくわくチャリ_日本語版
12. 2019年度シンポジウムチャリ